

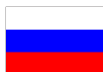
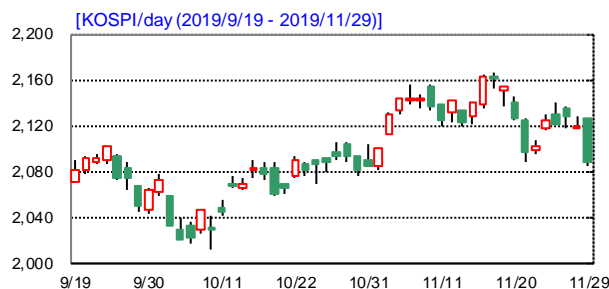


【韓国】 総合指数は週間で0.7%安と続落、中央銀行は金利据え置きを決定

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.7%安と続落。MSCI 新興国市場指数のウェイト引き下げが相場の重しとなった。米中貿易協議の進展期待を背景に週明け25日は続伸。12月下旬に中国・成都で予定されている日中韓3カ国の首脳会談に合わせ、日韓両国が首脳会談の開催に向けて調整を行うことで一致したと伝わり、関係改善への期待から航空株が買われた。一方、米国で「香港人権・民主主義法」が成立し、米中の対立激化が懸念されたほか、韓国銀行（中央銀行）が29日に政策金利の据え置きを決定したことが嫌気され、指数は29日に終値で10月31日以来、約4週間ぶりの安値をつけた。今週も引き続き米中協議を巡る関連報道に左右される展開が続くと予想する。経済指標は4日に外貨準備高、5日に経常収支が発表される予定。

▼指数チャート

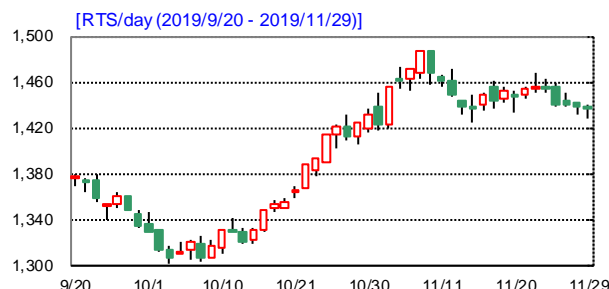


【ロシア】 RTS 指数は1.2%安と反落、今週は原油安が引き続き相場の重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.2%安と反落。米中通商協議の先行き不透明感や原油安、ルーブル安が嫌気された。指数は週明け25日に小幅安となり、26日は米中通商協議の不透明感を背景に前日比で0.9%下落。その後、米中両国が通商交渉で合意は近いとの見方を示したが、原油相場下落や米国による対ロ追加経済制裁に対する警戒感で売り優勢の展開が続いた。週後半に対ドルでルーブル安となり、投資家心理をさらに冷やしている。指数は27日を除く4日間で下落し、1438.45ドルと約2週間ぶりの安値水準で終えた。個別銘柄ではスルグトネフテガス(5.6%安)、ノバテク(3.2%安)、ロスネフチ(2.6%安)などの資源・エネルギー株が指数を押し下げた。今週は米国の対ロ追加制裁観測や原油安が引き続き重しとなるか。

▼指数チャート

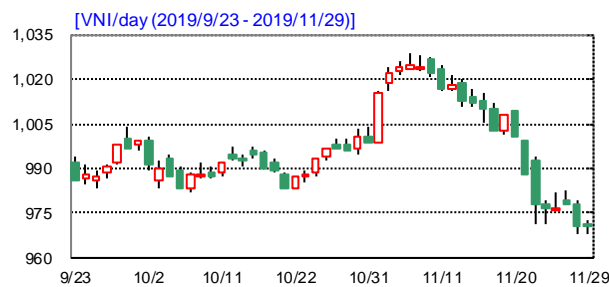


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.7%安と3週続落、今週は押し目買いに期待

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%安と3週続落。トランプ米大統領が「香港人権・民主主義法案」に署名し、米中通商合意への不透明感が高まったことで投資家心理が悪化した。週前半は米中通商交渉の行方をにらみ、指数は方向感に欠ける展開となったが、トランプ米大統領が「香港人権・民主主義法案」に署名し、米中通商合意への先行き警戒感が強まったことで投資家心理が悪化。VN 指数は28日に前日比で0.8%下落した。29日も持ち直しの動きはみられず、週末の終値は970.75ポイントと9月11日以来の安値水準となっている。個別銘柄ではサイゴンビール・アルコール飲料(3.8%安)、ペトロベトナム・ガス(2.5%安)、ビンホームズ(1.7%安)などが指数の重しとなった。今週は3週続落後の割安感から押し目買いが期待できるか。

▼指数チャート

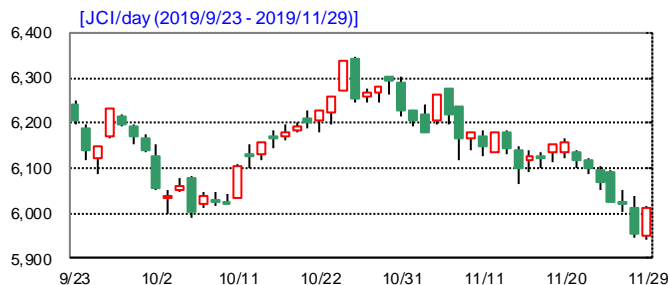


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.4%安、米中関係の悪化懸念で下落

ジャカルタ総合指数は週間で1.4%安と5週続落。11月月間では3.5%安。先週は国内の重要イベントが少なく、米中両国の動向が指数下落を主導した。週初の25日は、米中貿易協定の先行き不透明感から売られて3営業日続落。その後も買い材料に乏しく、じりじりと下値を広げると、28日は前日に米国で香港人権法が成立し、中国が報復措置を警告した影響で指数は前日比1.2%安と終値で節目の6000ポイントを割り込み、約6カ月ぶりの安値を更新した。ただ、29日は反動で買い戻され、前日比1.0%高と7営業日ぶりに反発して取引を終えている。今週は2日発表の11月のCPIに対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

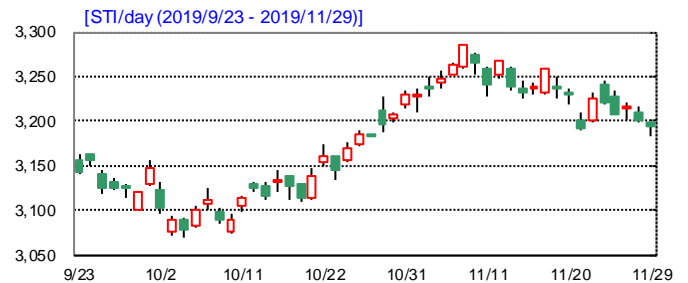


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.0%安、今週は 11 月の製造業 PMI が焦点

ストレーツタイムズ指数は週間で1.0%安と3週続落。11月月間では1.1%安。さえない値動きが続き、週末には終値で節目の3200ポイントを割り込んだ。週初の25日は、10月のコアインフレの上昇率が前年同月比0.6%と約3年半ぶりの低い伸びとなったことが売り材料視されて反落。26日は同月の鉱工業生産が前年同月比4.0%増と市場予想から上振れしたものの、金融緩和に対する期待感が後退した影響で売られた。27日はトランプ米大統領による米中貿易交渉の進展を示唆する発言が好感されて反発したが、週後半は続落して取引を終えている。今週は3日に11月の製造業PMIが発表される予定。

▼指数チャート

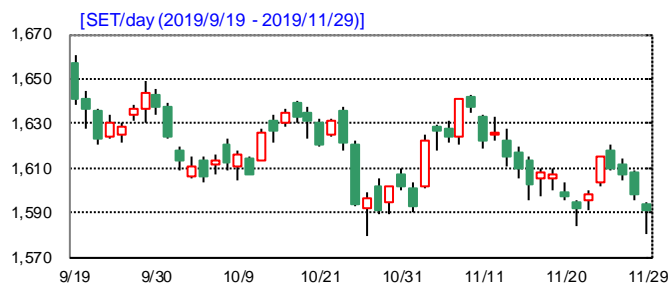


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%安、今週は 1600 ポイント回復に期待

SET 指数は週間で0.4%安と3週続落。11月月間では0.7%安。先週は週初に上昇したが、その後は週末まで4日続落と軟調な値動きが続いた。25日は政府が年内に17億米ドル規模以上の景気刺激策の実施を検討していると報じられた効果で、指数は前日比1.1%高と続伸。ただ、26日に反落すると、27日は10月の鉱工業生産が前年同月比8.5%減と市場予想から下振れた影響で売られた。28日は米中関係の悪化に対する懸念が広がり、終値で4営業日ぶりに1600ポイントを下回ると、29日も売り優勢で引けている。今週は2日発表の11月のCPI上昇率が指数を左右する展開か。5日はラーマ9世誕生日のため休場。

▼指数チャート

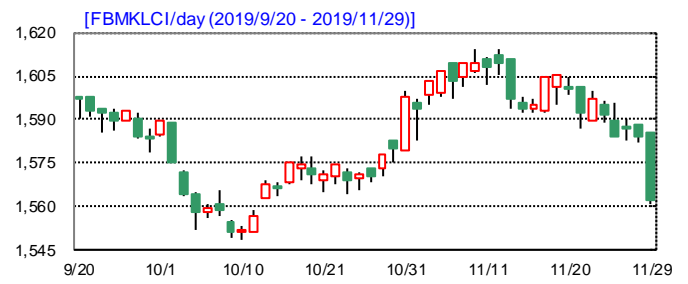


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.2%安、今週は 4 日に 10 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で2.2%安と反落。11月月間では2.3%安。1週間を通じて1600ポイントに届かず、軟調だった。週初の25日は前週末に反発した流れを維持できずに反落。26日はパーム油価格が下落した影響で売り優勢の展開となった一方、27日は7-9月期の純利益が大幅に増加したテナガ・ナショナルが指数上昇をけん引し、3日ぶりに反発した。ただ、28日は米原油在庫の増加を受けて原油価格が下落し、エネルギー株が指数の下げを主導すると、29日も続落して引けている。今週は4日に10月の貿易統計が発表される予定で、輸出額が前年同月の水準を上回れば株式相場の支援材料になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。